

Raymond Academy

レイモンド学園だより No.50

2024 年 10 月

主の御名を賛美いたします。

尊いお祈りに支えられ、2 学期の学園生活も大きな恵みのうちに終えることが出来ました。感謝を持ってご報告いたします。

夏休みを学期の真ん中に挟んでいることも有り、慌ただしくまた忙しい学期でもありました。大きなことは 20 周年記念式典、そして後援会発足でした。これまでの神様の御業を振り返り、感謝を献げ御名を崇めました。20 年間、また式のために尊いお祈りを賜り、改めて感謝いたします。

さて、11 月には学園祭を開催いたします。生徒たちと話し合いをする中、神様から与えられたみことばは、「あなたのとなり隣人をあなたと同じように愛しなさい……あなたも行って、同じようにしなさい。」(マタイ 10:25-37) でした。そして学園祭のテーマは「WWJD?」(What Would Jesus Do? イエス様ならどうされるだろう) に決まりました。

そんな矢先、能登半島被災地支援ボランティアの情報が与えられ、先のみことばが私たちに迫ってきました。そして、10 月初めにはじめて学校としてボランティアに参加いたしました。みことばを実践する機会が与えられ、心から感謝しました。

レイモンド学園は神様の祝福と皆様の篤いお祈りに支えられ、このように神様の御臨在豊かな日々を積み重ねています。ことばに表せない喜びに溢れています。どうぞこれからもお祈りでお支え下さいますようお願いいたします。

学園長 伊東美穂

[報告]

7 月 13 日(土) 創立 20 周年記念式典

皆様のお祈りとお支えにより創立 20 周年記念式典を執り行うことができました。心より感謝いたします。式典ではチアにつぼんの稲葉寛夫先生から力強いメッセージをいただき、大きな励ましとチャレンジをいただきました。第一期卒業生のシムス真菜さんの祝辞、パク・ヨンエ先生の特別賛美、在校生、卒業生による賛美など祝福された時となりました。式典後には軽食をとりながら、20 年の歴史を写真で振り返りました。また、卒業生の齋藤航大先生が会長となってレイモンド学園後援会が発足しました。神様の全ての御業のゆえに賛美をお献げします。



9月12日(金) Quarterly Trip in そなエリア東京

2学期の全体遠足は、東京臨海広域防災公園にある「そなエリア東京」という防災体験学習施設に行きました。タブレットを使用しながらいくつかの体験コーナーをまわり、地震災害後の支援が少ない時間を生き抜く知恵について学びました。



9月26(木) 高橋流香先生お別れ会&ミスターアサエル歓迎会

約3年間レイモンド学園で働いて下さった高橋流香先生のお別れ会とミスターアサエルの歓迎会をしました。旭体育館でゲームをした後、公園で遊びました。流香先生のこれからの新しい歩みが、そしてミスターアサエルのレイモンド学園での働きが祝福されるようにお祈り下さい。



9月27日(金) ACE セミナー

今年のスペシャルゲストは光の子どもクリスチャンスクールの金子道仁先生でした。日本のチャーチスクールの草分け的存在であり、国内各地のスクールを励まし導いて下さるグッドサマリタンチャーチの牧師先生によりメッセージを頂き、信仰が大変励まされました。その他の講師は伊東献仁師、美穂師、ミゲル・エグレミ氏、そして通訳はロケ証子師でした。今回も対面とオンライン併用の開催となりましたが、国内10校の先生方や保護者の参加があり、良き交わりの時となりました。



10月1日（火）～4日（金） 能登半島ボランティア活動

9月の豪雨により度重なる被害に見舞われた能登半島の緊急支援呼びかけに神様からの導きと迫りを感じ、学園から代表して数名が参加しました。教師3名と中高生男子生徒3名、卒業生1名による3泊4日の旅でした。以下にミゲル先生から報告としてお知らせします。

私たち7人は石川県能登半島の被災地に、他の団体と共にボランティア活動をするために出かけました。10月1日（火）に出発し、7時間かけて津端教会に到着しました。教会の渡邊先生ご夫妻と教会員の方に温かく迎えられ、そこから3泊お世話になりました。

2日間チームは2班に分かれ、それぞれ違う働きをしました。献仁先生と生徒たちのチームは1日目は支援物資の準備のため教会で作業をしました。必要なものを買そろえ袋詰めをしたり、1月の震災に遭われた方々に励ましの手紙を手書きで1枚1枚書きました。2日目は大雨による災害に遭われた方の支援に出かけました。裏山が崩れて土砂が家の壁にまで押し寄せたお宅の泥を掻き出す作業でした。危険の伴う地域ではありませんでしたが、降り続く雨により作業は思ったよりも困難で、木の根などが混ざった土を運ぶのは大変な作業でした。しかし生徒たちは懸命に働き、多くの土嚢を運ぶことができました。

一方私たち教師2人は、被災地で活動する数あるボランティアグループの一つ「能登ヘルプ」に参加しました。能登ヘルプの拠点となっている内灘聖書教会でミーティングをした後、2時間かけて能登半島の輪島に行きました。そこで水害を受けたグループホームで働くNPOの「ラブ・イースト」と共に作業をするように指示を受けました。その建物は大雨により水位が床上40センチに及んだ為、そこから下の部分は全て剥がして工事し直さなければなりません。私たちは機械で壁を壊したり、壁紙や断熱材を剥がす必要がありました。また、カーペットを剥がしたり、手作業で木材を切ったり、床の板を外したり木材を運び出すなどの重労働をすることになりました。2日間8時間たっぷり働き、また2時間かけて拠点の教会に戻りました。夜には生徒たちのチームと合流して過ごしました。

最終日の金曜日は全員で能登半島北部まで、用意した物資を届けに行きました。そして1月の地震で家をなくし仮設住宅で生活する方々を訪問しました。心のこもった贈り物を、感動し喜んで受け取って下さいました。しかし、大変な生活をされている現地の方々にとっては、若者たちの親切さと存在そのものが大きな励ましとなっているのだと感じました。雨の中数時間荷物を運び歩いてから、チームは神奈川に向かって出発しました。8時間以上の長旅でしたが、1人1人の心はかけがえのない経験と大切な学びを得て、無事に旅を終えることが出来ました。

沢山の方々の祈りとご支援を頂き、被災地にて労するチャンスが与えられましたこと、感謝いたします。



【アサエル・トロヒーヨ兄の証】



私はクリスチャンホームに生まれたわけではありませんでした。私の両親はとても若く、私が生まれたときは結婚していませんでした。私は7ヶ月の未熟児で生まれました。そのため生まれたときは沢山のリスクを抱えていました。私は1300グラムで生まれてしまい、肺は完全には発達していませんでした。後に失明するかもしれないと言われ、母は血圧に問題がありました。そんな状態の、クリスチャンでもない家庭の私と母でしたが、既にその時から神様に守られ支えられていました。1ヶ月後私は健康に問題ないとされて退院しました。私が5歳の時父と母は、結婚しないまま別れる決

心をしました。それは私の人生の中で最もつらいときでした。私が8歳の時父が福音を聞き、教会に通い始めました。そしていろいろなことが良い方向に変わっていきました。父が私を教会に誘ってくれたので行ってみることにしました。その時のことを今でもはっきり覚えています。初めてプロテスタントの教会に行きましたが、何か特別で今まで経験したものとは違う感じを受けました。数ヶ月後に私は主を救い主として信じ受け入れました。その頃父は母との関係を回復しようとし始めました。私もまた、母と一緒に教会に行きたいと誘いました。暫くして私たち3人は一緒に洗礼を受けました。私が9歳の時でした。その数ヶ月後に私の両親は初めて結婚しました。私にとっては、特に感動的な出来事があってクリスチャンになったのではありませんが、私にとって神様は私の家族を回復して下さり、私を生まれたときから守って下さっている方だと信じています。

私は小学校6年生まで公立の学校に通いました。友達も沢山いて、良い先生にも恵まれていました。しかし私はクリスチャンスクールに行きたいと思い始めました。数ヶ月間、両親は学校を探していましたが、阿部先生の学校にたどり着きました。2017年にその学校に転校し、今年7月に卒業しました。なぜか1年前から日本に行きたいという願いを持ち始めました。両親に打ち明け、阿部先生に相談しました。そして神様が導いて下さったので、私が今日本にいると思っています。神様は私にどのようなご計画をお持ちでこのように導いて下さったのか分かりません。しかし心から私の存在がレイモンド学園の生徒の皆さんにとって祝福となることを願っています。皆さんに歓迎されて心から感謝しています。そしてあらゆることでお役に立ちたいと願っています。

【お祈りと支援のお願い】

日頃より学園の活動のためにお祈りとお協力を賜り感謝申し上げます。レイモンド学園では11名の児童・生徒が元気に日々学んでいます。また、11月より新入生を迎える予定です。

11月には学園祭、タイの生徒大会参加も予定されています。様々な活動により生徒と共に充実した学園生活となるよう励みます。今後とも是非ご協力下さいますようお願い申し上げます。

支援献金振込先

郵便振替 00230-8-38999 レイモンド学園 伊東献仁

神様の祝福を皆様の上に心よりお祈り申し上げます。